

第8回水稲病害虫発生予察結果

《生育状況》

5月上旬田植えの早生品種 [コシヒカリ・キヌヒカリ等]

今回の調査ではほとんどの圃場で穂が出揃い、籾をつぶすと白い液が出る乳熟期となっており、一部の圃場では籾の白い液が硬くなる糊熟期となっておりました。どちらの状態でも籾を充実させるための水と、根を健全に保つための酸素が必要です。 **間断灌水**を行ないましょう。

カメムシについては、薬剤による防除を行っていただいていることもあり、どの圃場でも発生はありませんでした。しかし、籾が硬くなるまでの間は他の田んぼや雑草地からカメムシがやってきて、食害を与える危険が続きますので、時期をみて **2 回目の防除**を行ってください。使用農薬、使用時期は以下の「カメムシの防除薬剤・適期」をご覧ください。

5月下旬田植えの晩生品種 [あいちのかおり SBL 等]

幼穂が 4~6cm ほどとなり、2 週間程度で穂が出てくると考えられます。この時期は、籾をつくるための水と、根を健全に保つための酸素が必要な時期ですので、 **間断灌水**を行いましょ。

穂が出てからはカメムシが発生し、穂を食害するため、防除を行ってください。使用農薬、使用時期は以下の「カメムシの防除薬剤・適期」をご覧ください。

また、田んぼにツマグロヨコバイの成虫が若干確認されました。ツマグロヨコバイは茎葉を吸汁して黄変や株絶えという被害を与えるので、今後の発生傾向に注意し、発生が多いようであれば防除を行ってください。防除薬剤や使用方法はカメムシの防除と同じとなっております。

間断灌水のやり方

- ①水深が 2~3cm 程度になるまで水を入れましょう。⇒水が溜まったら、水を止めます。
- ②田んぼの水が減り、土面が出てきたら、①と同様に再び田んぼに水を入れます。
- ※①と②を繰り返すことで、穂を作るのに必要な「水」と、根に適度な「酸素」を与えることが重要となります。

カメムシの防除薬剤・適期

病害虫名	薬剤名	10a 使用量	1 回目防除時期	2 回目防除時期
カメムシ	トレボン粉剤	3~4 kg	穂揃期	1 回目の散布から 7~10 日後
	スタークル粉剤	3 kg	穂揃期	1 回目の散布から 7~10 日後

※カメムシは日中の暑い時間帯は株の下側にいて薬剤がうまくかからないため、カメムシが株の上側に上がってくる涼しい時間帯（午前 9 時前または午後 5 時以降）を狙って散布してください。